

旧式基礎を有する組積橋脚のL2耐震補強工法

羽矢洋 峯岸邦行

明治、大正時代に構築されたレンガ、石積みからなる橋脚は依然多く残存し、現在でも列車荷重を直接受ける構造物として供用されている。

このような組積橋脚の基礎形式としては、柔らかい地盤中に松丸太を打設し、その上にフーチングを構築した木杭基礎と呼ばれる形式のものと、比較的良好な地盤上にべた基礎と呼ばれる段フーチングを構築した直接基礎形式が多数を占める。

これらは一般的に旧式橋脚と呼ばれているが、概して耐震強度は低く、そのため少しずつ補強がなされてきている。

本報告は、このような旧式基礎を有する組積橋脚の耐震強度特性に関する知見と基礎と補強躯体の強度バランスを考えたL2耐震補強工法について紹介するものである。

(鉄道総研報告, 2008年3月号)

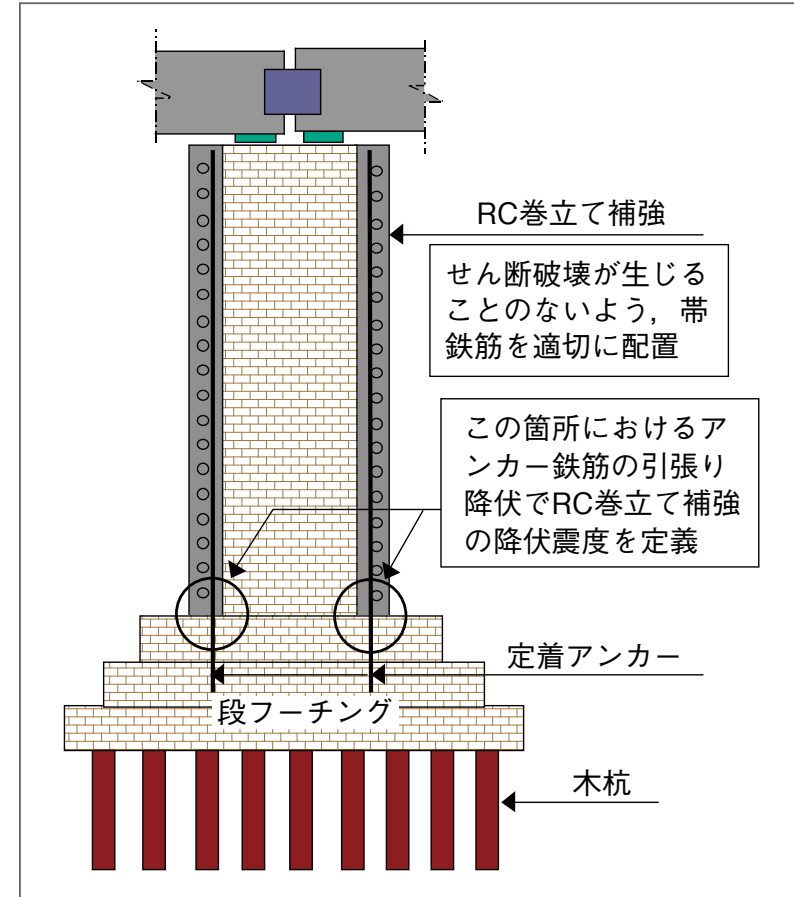


図 RC巻き立て補強概要